

# 春山秋山

楠山正雄

青空文庫



むかし、但馬国たじまのくににおまつられになつてゐる出石いずしの大神おおがみのお  
 女むすめに、出石少女いずしおとめという大たいそう美うつくしい女神めがみがお生うまれになりました。  
 この少女おとめをいろいろな神かみさま様さまがお嫁よめにもらおうと思おもつて争あいまし  
 た。けれども少女おとめはお嫁よめに行くことをいやがつて、だれのいうこ  
 とも聴きこうとはなさいませんでした。

この神かみさまたちの中に、秋山あきやまの下氷男したびおとこと春山はるやまの霞男かすみおとこ  
 という兄きょうだい弟あにの神かみさまがありました。ある日あに兄あきやまの秋山したびの下  
 氷男おとこは、弟おとこの霞男おとこに向むかつて、

「わたしはあの少女をお嫁にもらいたいと思つていろいろに骨を折つてみたが、どうしてもいうことを聴いてくれない。どうだ、お前ならもらえると思うか。」

と聞きました。

「わたしなら、わけなくもらつてみせますよ。」

と弟の神が、笑いながらいいました。

「ふん、そんならお前とわたしと、どちらが早く少女をもらうか競争をしよう。もしわたしが負ければ、この着物をぬいでお前に上げよう、そしてわたしの背の高さだけの大きなかめに酒をなみなみ盛つて、海山のごちそうを一通りそろえて、お客に呼んでやろう。」

とよいました。すると霞男かすみおとこはいよいよおもしろがつて、

「ようございますとも。そのかわり万まんいち一いちわたしが負けたら、に

いさんの代わりかに、わたしがごちそうをしましょう。」

こう約束やくそくをして別わかれました。

弟おとうとかみの神はそれからうちへ帰かえつて、兄神あにがみと賭かけをしたことをおか

あさんに話はなしますと、おかあさんは、

「よしよし、わたしがその賭かけに勝かたせて上げよう。」

とおっしゃいました。

おかあさんはそれから、一ひとばん晩ばんのうちにたくさんふじの藤ふじのつるで、

着物きものと袴はかまと、靴くつから靴くつ下したまで織おつて、編あんで、縫ぬつて、その上

にやはり藤ふじのつるで、弓ゆみと矢やをこしらえて下くださいました。

おとうとかみたい よろこ  
弟の神は大そう喜んで、おかあさんのこしらえて下さった藤づ  
るの着物きものや靴くつを体からだにつけて、藤ふじづるの弓矢ゆみやを手てに持もちました。そ  
して、うきうきうかれながら、野のを越こえ山をを越こえて、少女おとめの家いえへ  
急いそいで行きました。

いよいよ女神めがみの家いえの前まえまで来きますと、着物きものから靴くつから弓矢ゆみやまで、  
残のこらず一度どにぱつと紫むらさきいろの藤ふじの花はなが咲さき出だして、それは絵えに  
かいたような美うつくしい姿すがたになりました。それから弟おとうとかみの神は、藤ふじの花はな  
の咲さいた弓矢ゆみやを少女おとめの居間いまの戸との前まえにたてかけておきますと、少お  
女とめが出でがけにそれを見みつけて、ふしぎに思おもいながら、きれいなも  
のですから、つい手てに持もって出でようと思いました。そのとき弟おとうとかみの神は  
はすかさずそのあとについて行いって、

「あなた、どうぞわたしのお嫁よめになって下さいくだい。」

といいました。少女おとめはびっくりして、ふと自分じぶんに物ものをいいかけたものの方ほうをふり向きむますと、そこに目めもくらむように美うつくしい花はなに飾かざられた若い男わか神おがみが、気け高たかい姿すがたをして立たっていました。少女おとめはすぐ男おがみ神おがみのお嫁よめになりました。やがて二人ふたりの間あいだには子供こどもが一人ひとり生まれました。

## 二

その後弟のちのちの神うとは兄あにの神かみに向むかって、

「いつぞや約やく束そくしたとおり、わたしは少女おとめをお嫁よめにもらつて、

子ども  
子供まで出来ました。だから約束やくそくのとおり、あなたの着物きものをぬいで下ください。それからごちそうをたんとして下ください。」

といいました。

けれども兄神あにがみは弟神おとうとがみの幸福こうふくをねたましく思おもつて、さもいまいましそうに、

「そんな約束やくそくはした覚えおぼがないよ。」

といて、まるで着物きものもくれないし、ごちそうもしませんでした。

おとうとがみ

弟神おとうとがみはくやしがつて、おかあさんの女神めがみの所ところへ行いつていい

つけました。すると女神めがみはおおこりになつて、兄神あにがみに、

「あなたはなぜうそをつくのす。神かみのくせにいやしい人間にんげんの



するようなうそをつくというのは何事なにごとです。「

としかりました。

それでも兄あにがみ神はやはり約やくそく束を果はたそうとしませんでした。  
 すると女神めがみは出石川いずしがわの中の島しまに生はえていた青竹あおだけを切きつて来きて、  
 目の荒あらいかごをこしらえました。そしてその中へ、川の石いしに塩しおを  
 ふりかけて、それを竹たけの葉はに包つつんだものを入れて、

「この兄あにがみ神かみのようなうそつきは、この竹たけの葉はが青あおくなって、や  
 がてしおれるように、青あおくなって、しおれてしまえ。この塩しおが干ひ  
 からびるように干ひからびてしまえ。そしてこの石いしが沈しずむように沈しず  
 んでしまえ。」

とのろって、そのかごをかまどの上うへにのせておきました。

すると兄あにがみ神はそのたたりで、それから八年ねんあいだの間干からびて、しおれて、病やみ疲つかれて、さんざん苦くるしい目にあいました。それですつかり弱よわりきつて、泣なき泣なきおかあさんの女神めがみにおわびをしました。

そこでやつと女神めがみがのろいをといっておやりになりますと、兄あにが神はまたもとのとおりの丈夫じょうぶな体からだにかえりました。

# 青空文庫情報

底本：「日本の諸国物語」講談社学術文庫、講談社

1983（昭和58）年4月10日第1刷発行

入力：鈴木厚司

校正：佳代子

2004年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたっては、ボランティアの皆さんです。

# 春山秋山

楠山正雄

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>